

会 議 録 要 旨

会 議 名	平成30年度 第4回藤沢市下水道運営審議会	
開 催 日 時	2018年(平成30年)9月26日(水) 午前10時00分～午前11時55分	
開 催 場 所	本庁舎5-1、5-2会議室	傍聴者数 0人
出席者	会 長	神田 務
	委 員	井上 美鈴・大岩 英一・小野島 真・川田 兼子・木村 安代・齋藤 力良・布川 晃
	事 務 局	鈴木市長 鈴木下水道部長 下水道総務課：武井参事・近藤主幹・指旗主幹・小川補佐・佐藤補佐・林補佐・外山専任補佐 村田・吉原・小藤田・野本・松田・田中 下水道管路課：張ヶ谷課長・藤原補佐・鈴木補佐・青木主査 下水道施設課：竹村参事・真間主幹・一ノ瀬補佐・関野補佐 中丸辻堂浄化センター長・加藤大清水浄化センター長 佐藤(拓)・鷲塚・斉藤・清水・山村
議題及び公開・ 非公開の別	1 下水道使用料減免制度の見直しについて(答申) 2 アセットマネジメントの導入について 3 その他 (1) 下水道フェアについて <div style="text-align: right;">(すべて公開)</div>	
非公開の理由		
審議等の概要	<p>《議題》</p> 1 下水道使用料減免制度の見直しについて(答申) 藤沢市下水道運営審議会から鈴木市長へ「藤沢市下水道使用料減免制度の見直し」について答申。 <p>《議題》</p> 2 アセットマネジメントの導入について 下水道事業におけるアセットマネジメントの導入に向けた取り組み状況を報告。 <p>【質疑】</p> ①下水道の分野で進んでいる仙台市は、どのような取り組みをしていたのか。 下水のガス利用など将来的な研究もアセットマネジメントに加えては、工夫することで収益につなげるよう多方面にアンテナを伸ばし情報収集をし活用してはどうか。 <p>《回答》</p> 仙台市はアセットマネジメントの導入が一番進んでいることから、先進的事例からお手本となるものがあるか、どのような進め方をしているのか視察してきました。 また、名古屋市においては、管路・施設のストックマネジメントに時間をかけ取り組んでおりました。横浜市においては、長期的な下水道の経営計画を進める中での一つのツールとしているとのことで、自治体の規模、歴史、さまざまな要因により違った形で進めている現状がございました。 そういった中で、藤沢市型のアセットマネジメントをより具体化していくため、基盤を作っているところでございます。 藤沢市の処理場には消化の処理工程がなくガス利用は難しいですが、下水道の資源エネルギーの活用方法は、湘南ふじさわ下水道ビジョンの中のアクションプログラムの中で掲げており、平成34年度までに調査研究を重ね、循環型社会に寄与し活用できるかを研究してまいります。 <p>②資料P12グラフの藤沢市将来人口推計を見ると、2045年は現在より人口が若干上回っており、使用料収入の減少とは結び付かないのでは。節水機器の普及をもって使用料は減るのでは。1日の一人当たりの使用水量の比較を加えてはどうか。 P13の全国の事業数と職員数は、藤沢市の状況にしてみてもどうか。 P14の経営のあり方に、施設の老朽化による事故の減少とあるが、施設の老朽化に伴う事故を減少するということでは。</p>	

<p>審議等の概要</p>	<p>《回答》 資料P12につきましては、今現在、人口減少は顕著ではありませんが、この先明確に出てくることを捉えて、アセットマネジメントの中で対策を打っていききたいことから、減少と挙げさせていただきました。 P13の職員数ですが、浄化センターの維持管理などの職員数を比較すると、10年以上前とは2割程度以上は減少しています。減ってきた人数で山積する課題を解決するために事業自体をスリム化していくことが必要であるため、アセットマネジメントの中であわせて検討をしていくことを考えております。 P14の表現につきましては、事故を未然に防止するというような書き方が適当と思われるため、言葉の定義を考え改めてお示しをします。 藤沢市の職員数の推移は、平成6、7年頃がピークで大体120人、現在平成28、29年は80人ぐらいで、約3分の2程度に減少している状況です。職員数のグラフにつきましては検討いたします。</p> <p>③資産の適正なマネジメントの根底には収支をどうしていくか、5年後、10年後の収支をまず入れないとアセットマネジメントにはならない。耐震化・長寿命化でこれだけの効果ができる、効果を数値として、お金の収支に落としこむことが重要。 収入の場合、使われている人から100%お金をもらっているか、漏れているものはないかといった未収の把握に努めていく必要がある。 支出では、長寿命化・耐震化でお金が出ていくが、アセットマネジメントとしてそうしたことの数字的な位置づけをしていくのではないかと。 下水の消化ガスの利用は、だいぶ前から取り組んでいるところがあるが採算は合わない。汚泥を発酵させ肥料をとる取り組みも進んできている。</p> <p>《回答》 現在、ストックマネジメントの策定を急務として進めており、今後かかる改築や保全のためのお金がどれくらいなのか積み上げている状況でございます。ストックの結果を受け、収支均衡を図り経営していくための経営戦略を作ります。耐震化計画・長寿命化計画などの効率的な事業計画を立てていくことで、経営戦略の形になっていくことから、まずはストックマネジメントの明確化に注力をしていきます。 未収につきましては、上下水道を一括徴収しており、徴収率は上がっています。 新規の場合、排水設備確認申請、完成届、使用開始届の確認をしています。過去のものは、接続調査を行い、遡及し請求を行っており、未収金の把握に努めています。</p> <p>④都市計画が計画的に作られず住宅が郊外に広がり、その都度インフラの設備投資が増え、都市の空洞化が進むと聞いたが、アセットマネジメントには藤沢市全体の都市計画との整合は入らないのか。</p> <p>《回答》 下水道施設は、都市計画法に基づいて整備をしています。中心市街地の空洞化は、藤沢市ではまだございませんが、市街化調整区域では人口減少が始まっている部分もあることを見据えて、都市計画を加味し下水道施設を整備し、事業を進めていく必要があると考えております。</p> <p>⑤PDCAサイクルのCは、具体的には内部評価か、外部評価か。また、数量化することが難しい定性的なものはどのように目標を立てるのか。</p> <p>《回答》 藤沢市としての評価方法は検討中です。例として仙台市は、ISOを使い外部評価を行っていますが、横浜市はアセットマネジメントに関する外部評価は行っていないとのことです。 アセットマネジメントは、下水道ビジョンに書かれている業務の活動であるため、評価は総合的にビジョンの指標を用いて確認し、全体を捉えていく形になります。</p> <p>⑥資料P20のタイトルには「アセットマネジメントの導入で可能になること」とあるが、図はアセットマネジメントの概念のように思われるがいかがか。</p> <p>《回答》 資料の書き方を検討します。</p> <p>3 その他 (1) 下水道フェアについて 平成30年10月20日（土）10時～14時 辻堂浄化センターにて開催予定</p>
<p>その他</p>	